

順調に規模拡大を続ける地域の若手リーダー

1 現在の農業経営の概要

経営地・氏名	北海道 北村 卓馬 さん
経営開始年	平成24年（2012年）
営農類型	肉用牛繁殖
経営規模	繁殖雌牛100頭
公庫資金ご利用歴	<就農4年目> 繁殖雌牛30頭導入のために青年等就農資金（29百万円）を利用 ※ 就農時に繁殖雌牛導入のため旧就農支援資金（8百万円）



北村 卓馬 さん

2 就農までの経歴・就農のきっかけ

- ・北海道出身。実家は畑作農家。東北地方の大学に進学。卒業後は早く身を固めたいと考えて、地元八雲町に戻り実家の農業を手伝う。畑作の傍ら数頭の肉用牛を飼養しており、5年間担当して基礎知識を学ぶ。
- ・旧青年就農給付金や旧就農施設等資金を利用できることは大きなメリットと考えて、肉用牛（繁殖）経営者として独立（実家の畑作経営は、妹さんが継承）

3 今後の抱負/後に続く新規就農者の方々に送るエール

◆今後の抱負◆

肥育素牛の市場価格が低迷しても安定した経営ができるよう、40歳までには現況規模の2倍（繁殖雌牛200頭）を目指したい。60歳までには何カ所も分場を持ち、繁殖雌牛6,000頭まで規模拡大したい。

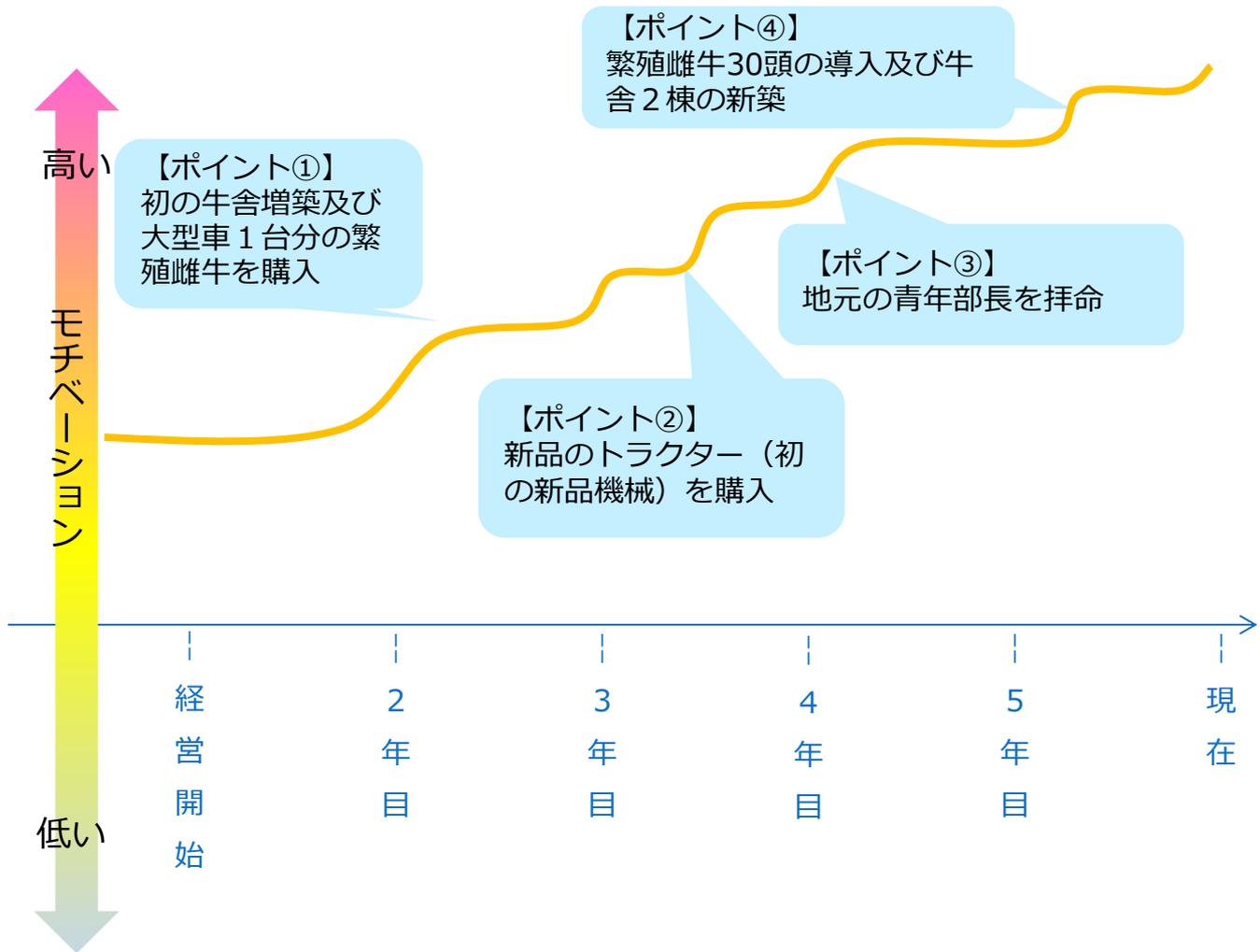
◆後輩の皆さんへ◆

- ・一気に満額借りるのではなく、初回はある程度に抑えて段階的に5年間で満額まで借りる計画を作っていたので、元金償還を迎えている今は助かっています。
- ・就農後5年以内は様々な支援制度が利用しやすいので、営農で忙しい中であっても、自分自身で各種制度を調べるところを利用すべきだと考えます。
- ・将来の経営確立のためには、積極的な投資も必要です。将来の償還のために資金を蓄えることを意識し過ぎると、将来に必要な投資ができず経営を発展させられなくなる可能性もあります。



放牧させることで健康な牛を育てます

4 北村さんのこれまでの経営とモチベーショングラフ



5 モチベーショングラフのポイント解説

主なできごと / 経営上の課題と解決策

- ① 2～3年目：初の牛舎増築とともに鹿児島県から大型車1台分の牛を購入しました。経営が軌道に乗ってきたことを実感できました。
 - ② 3年目：補助事業を利用して初の新品トラクターを購入、それまでかかっていた修理代が大幅に削減されました。
 - ③ 4年目：地元の青年部長を拝命しました（3年間。平成30年4月からは監事を拝命）。地域の人たちからの期待に応えられるよう頑張りたい。農業経営では、地域に受け入れてもらうことは重要です。
 - ④ 5年目：牛30頭の導入（青年等就農資金）及び牛舎2棟の新築（自己資金）を行い、規模拡大を進めました。目指す安定経営に近づく喜びを感じます。
- ※ 季節の変わり目（10～11月、3月）の分娩時に繁殖雌牛が数頭死んでしまうことがあります。技術力向上や飼養管理の徹底の必要性を強く認識します。